

倉島節尚編



本朝養人鑑

古典文庫

倉島節尚編



古典文庫

昭和六十年七月二十日発行

非売品

鑑	編者
人	倉島
美	節 <small>とき</small>
朝	尚 <small>ひさ</small>
本	一
	吉田幸一
	発行者
	印刷者
	共立印刷株式会社

発行所

114

東京都北区西ヶ原
三ノ三四ノ一二

古典文庫

電話 〇三(九一〇)二七一七
振替口座東京九一四五九七番

目次

凡例	三
本朝美人鑑	一
本朝美人鑑	二
本朝美人鑑	三
本朝ひしんかか見	四
本朝ひしんかゝみ	五

『本朝美人鑑』解説

倉島節尚……三三

凡 例

一、貞享四年二月の序をもつ国立国会図書館蔵「繪入本朝美人鑑」(五巻、合一冊)を底本とした。

二、翻刻に当たっては、漢字・仮名の別、仮名づかい、清濁、振り仮名等はすべて底本の表記に従った。仮名の「ハ・ミ」もそのままとした。

ただし、字体は現行の活字の字体によった。「珍・霄・吳・迺」等の異体字も、すべて「珍・宵・異・逃」を用いた。

三、底本の誤りと思われる箇所には、その右傍に(ママ)とし、本文を訂正することとはしなかった。

四、底本の丁付は 一オ・一ウ のように示した。

ただし、巻二は底本の丁付が、七・八・十三・十・十一・十二・十三・十四となっていて、九がなく十三が二箇所にある。本来九であるべき所にある十三は丁付のみ誤っていて、内容は正しく九であるので、翻刻に際しては便宜、九

オ・九ウ とした。

五、挿絵には順序に従って通し番号を施し、「挿絵第一図（そとおりひめ）」のよ
うに記して、底本における挿絵の所在を示した。

六、説話の番号は私に施した。

七、翻字原稿の段階で、山田忠雄先生の御校閲を忝うしました。先生は全編を底
本と照合して誤りを正して下さったほか、かずかずの御教示を賜りました。こ
こに記して厚く御礼申し上げます。

昭和五十九年六月二十四日

倉 島 節 尚

入繪
本朝
義人
鑑

本朝義入鑑

そに伐れぬしとせたりぬるに伐
愈生う見し安んた乃夢る五十年
取朝のつり枕浦鳴うあけてる中
玉千箱をさのりもゆりくあ
新と舊記う留むとあく為鑑うれ
古今の義人乃右所よりあふれ
ゆまのうまに去るをれを見侍るは誠
うみれ道ふ事うれぬる人
かこれぬ世を侍女のまをさる

本朝美人鑑

それ代々のむかしをたつぬるに彼盧生の見し榮花の夢は五十年邯鄲の
かり枕浦嶋かあけてくやしき玉手箱のものかたりもさたかならねと舊
記に留るを以て為し證なすしやうとされハ古今に美人の名をとりしおうなのふる
きふみにしるせるを見侍るに誠に文の道に達しそのこゝろはへかしこ
き後世の倭女のすなをならん」序才

かたごとくあつてや位階貴誌の
あつていそとそり姫川巻頭と
三十六人あつて出づ其年如孫説と
記本朝義人鑑と題して侍らぬ義人
をまひりしものあつてなり

貞享_{丁卯}四年

二月吉日

江戸大傳馬町三丁目
窪三屋

喜右衛門板

西村利吉板

本朝義人鑑目錄第一

かゝみともなれかしと位階いかいたつときしるし貴記をゑらハすそとをり姫を巻頭としをゑらハすそとをり姫を巻頭とし
て三十六人ゑり出し其年来珍説そのねんらいちんせつを記しるし本朝美人鑑と題し侍る彼笑草かのわらいくさを
まねくものならんか

貞享丁卯四年

江戸大傳馬町三丁目

二月吉日

靄屋

喜右衛門板

西村利右衛門板

本朝美人鑑目錄第一

「 序ウ

- 一 衣そとをり通と姫ひめ之の御ご事じ
 - 一 孝かう謙けん天てん皇わう之の御ご事じ
 - 一 香か久く夜や姫ひめ之の事じ
 - 一 伊い勢せ之の事じ
 - 一 和いっ泉み式しき部ぶ之の事じ
 - 一 光くわう明みやう皇こう后くわう之の御ご事じ
 - 一 小お野の頼より風かせ妻つま之の事じ
 - 一 小こ野の小こ町まち之の事じ
 - 一 中なか務つかさ之の事じ
 - 一 紫むらさき式しき部ぶ之の事じ
- 「目一才

- 一 夜通船之河事
- 一 孝漁天皇之山子
- 一 香久夜船之山子
- 一 伴執之度
- 一 和泉式部之山子
- 一 多弼皇右之山子
- 一 小野頼画妻之山子
- 一 小野小町之山子
- 一 中務之山子
- 一 式部之山子

同第二之卷目錄

- 一 小式部之事こしきぶ
- 一 上東門院之事しやうとうもんゐん
- 一 道綱母之事ちつなのはは
- 一 伊勢大輔之事いせたゆうふ
- 一 右近之事うこん
- 一 赤染衛門之事あかぞめゑもん
- 一 相模之事さかみ
- 一 清少納言之事せいせうなごん
- 一 大貳三位之事たいにのさん

目一ウ

同第三之卷目錄

- 一 儀同三司母之事きとうさんしのはは
- 一 二代御后之事きさき
- 一 袈裟御前之事けさこせん
- 一 建礼門院之事けんれい
- 一 周防内侍之事すわうないし
- 一 式子内親王之亼しよくしなishんわう
- 一 小侍從之亼こちじう
- 一 小督局之事こかうつほね

同第四之卷目錄

目二才

一 小宰相局之事 こさいしやうつほね

一 平大納言息女へい 夏そくによ

一 重衡卿室之事 しげひらきやうしつ

一 丹後局之事 たんごのつほね

同第五之卷目錄

一 塩冶判官室 えんやはんくわんしつ

一 伊賀局之事 いか

一 義政公御室 よしまさこうみたび

一 勾當内侍之事 こうとうのないし

一 弁内侍之事 へんのないし

目錄之終

目二ウ